

植物成長調整剤  
ヒオモン水溶剤

1-ナフタレン酢酸ナトリウム水溶剤

平成29年10月25日付けで以下の通り適用拡大されました。

&lt;変更内容&gt;

- 作物名「りんご」に使用目的「新梢伸長抑制」を追加する。
- 作物名「なし」に使用目的「新梢伸長抑制」を追加する。

太字が追加変更部分です。

| 作物名 | 使用目的          | 希釈倍数             | 使用液量             | 使用時期           | 本剤の使用回数 | 使用方法         | 1-ナフタレン酢酸を含む農薬の総使用回数 |
|-----|---------------|------------------|------------------|----------------|---------|--------------|----------------------|
| りんご | つる割れ軽減        | 3000～5000倍       | 300～600<br>L/10a | 満開20～30日後      | 1回      | 立木全面散布       | 3回以内                 |
|     | 収穫前落果防止       | 1000～2000倍       |                  | 収穫開始予定日の21～4日前 | 2回以内    |              |                      |
|     | <b>新梢伸長抑制</b> | 2000倍            |                  | 二次新梢伸長時        | 1回      | 立木全面散布又は枝別散布 |                      |
| なし  | 収穫前落果防止       |                  | 1000～2000倍       | 新梢伸長時          |         |              | 2回以内                 |
|     |               | 200～300<br>L/10a |                  | 収穫開始予定日の21～4日前 |         |              |                      |

&lt;使用上の注意事項の変更&gt;

## 【変更前】

(7)りんごに使用する場合は次の事項に注意すること。

- ①摘果目的でNAC剤を使用した場合は、NAC剤の効果（果実軸部分の退色、軽い接触での落果等）を確認したのちに本剤を処理すること。ただし、本剤の使用時期を逸しないこと。
- ②収穫前落果防止を目的に2回使用する場合は、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行うこと。
- ③つる割れ軽減を目的に使用する場合は、気象条件等により果実肥大が抑制される場合があるので注意すること。
- ④本剤を散布した後に、葉が黄化したりしおれたりする可能性があるが、本剤の生理活性の現れであり、果実の生育には影響がない。
- ⑤下記に記載した品種以外に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。  
(効果の確認されている品種)

「収穫前落果防止：きおう、つがる、王林、紅玉、陽光」

「つる割れ軽減：ふじ・早生系ふじ」

(8)なしに使用する場合は次の事項に注意すること。

- ①本剤を2回使用する場合は、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行うこと。
- ②本剤を散布した後に、葉が黄化したり落葉する可能性があるが、果実の品質に影響は認められない。ただし、品種「秀玉」では落葉が著しい場合があるので使用しないこと。
- ③下記に記載した品種以外に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。  
(効果の確認されている品種)

「王秋、幸水、おさゴールド、ラ・フランス、ルレクチエ」

## 【変更後】

### 8. 使用上の注意事項

- (1) 本剤の所要量を所定量の水に希釈し、よくかき混ぜてから散布する。調製した薬液はその日の内に使用すること。
- (2) 本剤は植物ホルモン剤であり散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用はさけること。
- (3) 散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布すること。
- (4) 使用の際は薬液が葉先から滴り始める程度にむらなく、樹全体に丁寧に散布すること。
- (5) 極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにすること。
- (6) 極端な高温時の散布はさけること。
- (7) りんごに使用する場合は次の事項に注意すること。
  - ① 摘果目的でNAC剤を使用した場合は、NAC剤の効果（果実軸部分の退色、軽い接触での落果等）を確認したのちに本剤を処理すること。ただし、本剤の使用時期を逸しないこと。
  - ② 収穫前落果防止を目的に2回使用する場合、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行うこと。
  - ③ つる割れ軽減を目的に使用する場合は、気象条件等により果実肥大が抑制される場合があるので注意すること。
  - ④ 新梢伸長抑制を目的に使用する場合、樹勢が旺盛な樹には効果が劣ることがあるので注意すること。
  - ⑤ 本剤を散布した後に、葉が黄化したりしおれたりする場合があるが、本剤の生理活性の現れであり、果実の生育には影響がない。
  - ⑥ 下記に記載した品種以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

（効果の確認されている品種）

「収穫前落果防止：きおう、つがる、王林、紅玉、陽光」

「つる割れ軽減：ふじ・早生系ふじ」

「新梢伸長抑制：ふじ」
- (8) なしに使用する場合は次の事項に注意すること。
  - ① 収穫前落果防止を目的に2回使用する場合、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行うこと。また、散布した後に葉が黄化したり落葉する場合があるが、果実の品質に影響は認められない。ただし、品種「秀玉」では落葉が著しい場合があるので使用しないこと。
  - ② 新梢伸長抑制を目的に使用する場合、果実肥大期以降に散布すると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないよう注意すること。
  - ③ 下記に記載した品種以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

（効果の確認されている品種）

「収穫前落果防止：王秋、幸水、おさゴールド、ラ・フランス、ル レクチエ」

「新梢伸長抑制：幸水、夏さやか」
- (9) 極端に樹勢の弱い樹では本剤の使用をさけること。
- (10) 使用後の散布器具等は十分洗浄すること。
- (11) 本剤は植物ホルモン剤であるので、使用に際して使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

